

令和4年度（2022年度）行政評価シート【個表】 令和4年7月22日

評価対象事業		評価者	こども相談課長 菅原 良	
こども-15	児童福祉運営事業	■ 自治事務	主管課 こども相談課	
		□ 法定受託事務	関連課 こども支援課・保育課	
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	子育て家庭への支援

1 事業の目的

対象	児童等
意図	児童福祉事業の円滑な執行を図るため。
効果	児童福祉事業が適切に実施される。

2 令和3年度(2021年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・寄附金をこどもの夢応援基金(旧遺児福祉基金と社会福祉基金を統合)に積み立てた。 ・こどもと家庭の相談室で、年間を通じて、虐待相談を含む、子どもと家庭に関する各種相談を受け付けた。なお、令和2年10月に、こどもと家庭の相談室を、児童福祉法に規定される「子ども・家庭総合支援拠点」として位置付けた。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和3年度		令和4年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)		指標(目標値) 予算額(千円)	
01	こどもの夢応援基金管理事務	ひとり親家庭等生活支援事業の遺児卒業祝金贈呈の原資となる寄附金を基金に積み立てた。	—	/			
02	こどもと家庭の相談室運営	虐待相談を含む、子どもと家庭に関する各種相談を受け付けた(経費は、職員課予算として計上・執行)。	相談件数	/		450	
03				/			
04				/			
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	29,852 /	13,100	30,100	
			一般財源	3,815 /	6,874	10	
			事業費の合計(千円)	33,667 /	19,974	30,110	
		人件費(千円)		16,581	20,572		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	1.3	1.5	2.0			
会計年度任用職員	4.0	4.0	4.0			

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	こどもの夢応援基金管理事務	ふるさと寄附金の収入であり、例年、年間の事業費を寄付金収入が上回っていることから、現時点で指標設定は行わない。	寄附金による基金を原資に遺児卒業祝金を贈呈することで、施策の方針中、子育て家庭への支援に寄与した。	基金の有効活用のための事業検討が必要である。
02	こどもと家庭の相談室運営	相談件数自体は、増やすことが目標とは言えないため、目標設定自体になじまないとも考えたが、相談室運営における一定の指標として、目標値を設定した。	各種相談を受け付け、必要に応じて各種支援につなげるという事業内容であるため、施策の方針中、子育て家庭への支援に寄与した。	国からの通知を受け、母子保健事業である子育て世代包括支援センターとの機能統合について検討が必要。
03	0			
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善・変更 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
<p>・こどもの夢応援基金等を活用したひとり親家庭への支援を図り、もって児童の健やかな成長を支援する。</p> <p>・こどもと家庭の相談室に寄せられる相談内容は、児童虐待に関するものを含め多種多様であり、また関係機関等との連携が必要な案件も増加傾向にあり、児童虐待の未然防止のため、今後もこどもと家庭の相談室の運営を継続する。合わせて、国の重層的支援体制施帯事業との連携や、母子保健事業である子育て世代包括支援センターとの一体化についても検討を行う。</p>	

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	こどもと家庭の相談室相談受付件数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
相談件数の増は、目標設定になじまないと考え、子育ての悩みをはじめとする多様な相談を受け止める相談室の役割における一定の指標として設定した。	目標値	450	450	450	450	450	450	
	実績値	441	511					
	達成率	98.0%	113.6%					

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--